



バージョン 2.0 ユーザガイド

目次

バージョン 2.0 ユーザガイド.....	1
必要要件	3
インストール.....	3
アップグレード.....	4
アンインストール.....	4
セットアップ ウィザード.....	5
インタフェース検出	6
Wi-Fiネットワーク	7
メイン画面.....	8
携帯からWi-Fi接続プロファイル.....	9
携帯からUSB接続プロファイル.....	9
携帯からBLUETOOTH接続プロファイル.....	11
Wi-FiからUSB接続プロファイル	13
USBからWi-Fi接続プロファイル	13
終了	14
接続画面	15
ステータス.....	16
概要.....	16
ソース	17
ターゲット.....	17
NAT.....	18
NATマッピング.....	18
切断.....	18

オプション.....	19
ツール.....	19
すべての設定をリセット.....	19
ログ表示.....	19
サポート情報保存.....	19
USB.....	20
モードの切り換え.....	20
BLUETOOTH.....	20
モードの切り換え.....	20
検出可能モードの切り換え.....	20
Wi-Fi.....	20
電源.....	20
接続モード切り換え.....	21
構成.....	21
言語.....	21
接続方法.....	21
Wi-Fiネットワーク.....	21
変更.....	25
IPアドレス範囲.....	25
バッテリー.....	26
キーブアライブ.....	27
詳細設定.....	27
ポートマッピング.....	28
バージョン情報.....	29
ライセンス.....	29
終了.....	29

このドキュメントはWMWifiRouter バージョン 1.20 以降のものに関連性がありますが、バージョン 2.0 での変更を反映し、アップデートしたものです。

著作権

(C) 2008, 2010 Morose Media. All rights reserved.

本ユーザガイドに記載されている内容は、予告なしに変更されることがあり、Morose Media はその責務を負うものではありません。また、本書で言及されている社名および製品名はすべて、それぞれの所有者の商標または商標登録です。

日本語ローカリゼーション: 株式会社ネクステッジテクノロジー

必要要件

以下は、WMWifiRouter の動作に必要なシステム要件です。(注 1)

- Windows Mobile 5 AKU 3.3 以上もしくは Windows Mobile 6 、Windows Mobile 6.5
- Wi-Fi 接続と携帯電話のデータ通信接続
- インターネット共有がインストールされており、動作すること(注 2)
- 15MB 以上の空き容量

(注 1)さらに必要要件が追加される場合もあります。

(注 2)プロバイダによっては自社ブランドの端末からインターネット共有を提供していない場合があります。

15MB の空き容量は、WMWifiRouter のインストールに 2MB、残りをインターネット共有で重たいデータ通信などを行う際に容量不足になるのを防ぐために使われます。

インストール

インストール方法は、以下の 2 つのオプションから選べます。

- パソコン上で 拡張子 exe インストーラを実行(Active Sync 接続が必要)
- デバイス上で拡張子 cab インストーラを実行

exe インストーラを用いたインストールでは、デバイスとコンピュータが USB ケーブルもしくは、Bluetooth hによって接続されていることを確認し、コンピュータ上の exe インストーラを起動します。デバイスへプログラムのインストールが行われます。

exe インストーラでインストールを行う場合、アクティベーションキーを持っているなら、直接インストール時にアクティベーションキーを入力できません。再度 WMWifiRouter をインストールする時のために、インストーラがアクティベーションキーを記憶してくれます。

cab インストーラを用いたインストールでは、cab ファイルをデバイスにダウンロードもしくはコピーし、デバイス上でインストーラを起動しインストールします。

デバイスによっては、正常にインストールするために Wi-Fi をオンにしてから行う必要があります。

WMWifiRouter v1.11 以前を使用している場合、新しいバージョンをインストールする前に古いバージョンをアンインストールする必要があります。

他のソフトウェア同様、WMWifiRouter をインストールする前に、デバイスの完全バックアップを行うことをお勧めします。

アップグレード

WMWifiRouter のアップグレードとは、新しいバージョンをインストールすることです。

WMWifiRouter v1.11 以前を使用している場合、新しいバージョンをインストールする前に古いバージョンをアンインストールする必要があります。

アンインストール

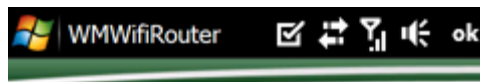
他のアプリケーション同様、コンピュータ上の ActiveSync から、もしくは設定メニューの[システム]から[プログラムの削除]を選択することで WMWifiRouter をアンインストールできます。

デバイスによっては、アンインストールするために Wi-Fi をオンにしてから行う必要があります。

Wi-Fi ネットワーク管理モードを**ダイナミック(セキュリティ重視)**モードにした場合、アンインストール後もアドホック ネットワーク設定がデバイス内に残ります。このネットワークを手動で削除できます。設定メニューの[接続]から[Wi-Fi のネットワーク名(デフォルトでは WMWifiRouter)]をタップアンドホールドして[設定の削除]を選択します。WMWifiRouter の接続に使用したコンピュータやデバイスからもネットワークの削除が必要な場合もあります。

セットアップ ウィザード

WMWifiRouterを始めて起動した場合、セットアップ ウィザードが自動的に開始されます。ウィザードが使用しているデバイスで使用可能なインターフェースや設定を検出後、幾つかの基本的な環境設定のオプションが提示されます。このウィザードは1回しか起動しないので、デバイスに変更があった場合は、[オプション]メニューの[ツール]から[すべての設定をリセット]を選択することで、再度ウィザードを開始させることができます。



インタフェース検出

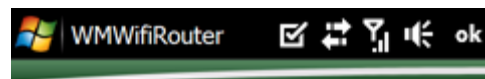
セットアップ ウィザードは、デバイス内の利用可能なインタフェース(ネットワークカード)を検出します。デバイスによっては、Wi-FiとBluetoothがオンの場合にのみ検出が行われるため、それらをオンにするよう要求されます。極稀に、デバイスをUSBでコンピュータにつなぐことが必要となる場合もあります。

Wi-Fiカードを検出できなかった場合、不明なインタフェース一覧が表示され、その中から選ぶことになります。

Wi-Fiカードを検出できないという問題は、時々発生します。

インタフェース検出のサイクルの中で、携帯通信ネットワーク接続の検出も行われます。携帯通信ネットワーク接続が1つだけの場合、自動的に検出し選択されます。しかし、複数ある場合は、表示される接続の一覧から選択する必要があります。検出した接続の一覧内で推奨される接続のチェックボックスが予め選択されています。

セットアップ ウィザードを起動後はいつでも携帯通信ネットワーク接続を変更できます。変更は、[オプション]メニューから[構成]->[接続方法]で行うことができます。

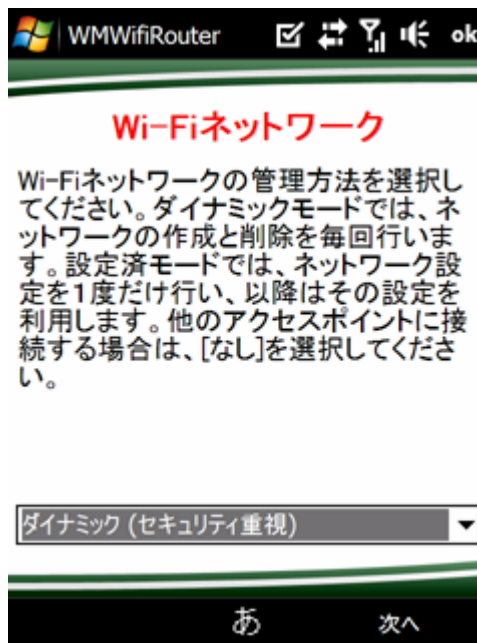


Wi-Fi ネットワーク

インタフェース検出後に、セットアップ ウィザードは Wi-Fi ネットワーク設定を起動します。この環境設定画面は、[オプション]メニューの[構成]から[Wi-Fi ネットワーク]を選択した場合と同じものです。詳細は、後述のオプション画面説明部分で扱われます。

Wi-Fi ネットワーク設定後、セットアップ ウィザードから Bluetooth と Wi-Fi をオフにするよう要求されます。しかし、実際に Bluetooth と Wi-Fi をオフにするのは、ハードウェア Wi-Fi スイッチのあるデバイスもしくは、

WMWifiRouter 起動中は Bluetooth と Wi-Fi がオンの状態であることが条件とされるデバイスを使用している場合のみです。



メイン画面

メイン画面には6つのボタンがあります。5つはデフォルト接続プロファイルのため、残りの1つはWMWifiRouterを終了するボタンです。接続プロファイルは、接続メニューを選択して見ることができます。一方のオプションメニューについては、このユーザガイドの後半部分で詳しく説明します。



携帯から Wi-Fi 接続プロファイル



この接続プロファイルは、WMWifiRouter で最もよく使われているものです。携帯通信ネットワーク接続をアドホック Wi-Fi ネットワークを用いて Wi-Fi で共有します。

多くの HTC デバイスでは、Wi-Fi パワーモードがデフォルトで**[高性能]**に設定されています。これが原因で様々な問題、特に接続やルーティングの失敗が起きるかもしれません。WMWifiRouter 内で直接設定を行うことができます。**[オプション]**メニューの**[ツール]**>**[Wi-Fi]**>**[電源]**で行うことができますが、すべてのデバイスで行える訳ではありません。

パワーモードを換える別の方法として、**[スタート]**メニューの**[設定]**>**[接続]**タブの**[ワイヤレス LAN]**を選択し、**[パワーモード]**タブで設定を行う方法があります。この設定は、常に**[最高バッテリー]**に設定されている必要があります。



携帯から USB 接続プロファイル



この接続プロファイルは、携帯通信ネットワーク接続を USB を通して行います。この接続プロファイルはパワー消費が最も低いですが、必要要件が比較的多くあります。まず、USB ケーブルが必要です。

互換性の問題や特定のソフトウェアが接続するコンピュータで起動していることも必要となります。必要とされるソフトウェアは、Windows XP、Windows Vista、そして Linux(の様々な種類)で利用可能です。必要とされるソフトウェアの主要要素は、USB を超えてモバイルデバイスとの伝達を行う RNDIS ドライバです。

Windows XP

Windows XP では、ActiveSync バージョン 4.5 以上が必要です。Windows XP のバージョンの中には上

記のソフトウェアがすでにインストールされている場合もありますが、ほとんどの場合は、インストールされていません。このソフトウェアは、通常、モバイルデバイス購入時に付いている CD/DVD に含まれています。含まれていない場合は、Microsoft 社の Web サイトからダウンロードできます。

Windows Vista / Windows 7

Windows Vista では、Windows Mobile Device Center が必要です。ActiveSync については、通常モバイルデバイス購入時に付いている CD/DVD に含まれていますが、Microsoft の Web サイトからダウンロードすることもできます。

Linux

Linux では、usb-rndis-lite パッケージが必要です。様々なソースから様々なバージョンやパッケージフォーマットが利用でき、使用しているデストリビューションも含まれることもあります。使用しているデストリビューションの説明書もしくは Web サイトで、パッケージをどのように、またどこへダウンロードしたらよいかを確認ください。

携帯から Bluetooth 接続プロファイル



この接続プロファイルは、PAN(Personal Area Network)Bluetooth プロファイルを用いて、携帯通信ネットワーク接続を Bluetooth を通して共有します。DUN(Dial-Up Networking)Bluetooth プロファイルを用いての共有はサポートしていません。

この接続プロファイルを特定のモバイルデバイス/コンピュータとの組み合わせで初めて用いる場合、モバイルデバイスを検出できるようにする必要があります。そうしないと、コンピュータがモバイルデバイスを検出し、組み合わせを作ることができません。モバイルデバイスを検出できるように設定するには次の手順で行います。

- 携帯から Bluetooth 接続プロファイルを用いて接続
- [オプション]メニューから[ツール]>[Bluetooth]を選択し、[検出可能切り換え]で、Bluetooth の状態をオンと検出可能にします。すべてのデバイスでこれが可能というわけではないので、該当するオプションがないデバイスを使用している場合は、Windows Mobile 使用説明書で手動での設定方法を確認してください。
- コンピュータ上でモバイルデバイスを検出して、組み合わせを作り、PAN オプションを設定します。これを行うための詳細な手順は、プラットフォームとオペレーティングシステムに依存しているため、このユーザガイドには情報は載せられていません。
- デバイスがマッチングされ、設定ができたならば、デバイスを再度検出不可能にする必要があります。[オプション]メニューから[ツール]>[Bluetooth]を選択し、[検出可能切り換え]でオフにします。

この作業を一度行ったなら、組み合わせを変えない限り、同じモバイルデバイスとコンピュータの組み合わせで作業



を繰り返す必要はありません。



Wi-Fi から USB 接続プロファイル



この接続プロファイルでは、モバイルデバイスを Wi-Fi ドングルとして使用できるようになります。利用可能な Wi-Fi 使用信号が USB を通して共有されます。

この接続プロファイルの必要要件は、[携帯から USB]接続プロファイルと同じです。

モバイルデバイスは、Wi-Fi ネットワークカードとしてコンピュータに表示されないため、任意の Wi-Fi アクセスポイントにモバイルデバイスを手動で接続する必要があります。

USB から Wi-Fi 接続プロファイル



この接続プロファイルは、USB 接続を Wi-Fi を通じて行います。[Wi-Fi から USB]接続プロファイルとは別個の接続プロファイルです。Wi-Fi から USB 接続プロファイルでは、インターネットの提供は無線によって得られ、それを USB によりコンピュータに送られて共有します。一方、USB から Wi-Fi 接続プロファイルでは、インターネットの提供が USB を通じてコンピュータからモバイルデバイスに送られ、無線によって共有するという点で大きく違いがあります。

この接続プロファイルの必要条件は、携帯から USB 接続プロファイルと同じです。

この接続プロファイルは多くの場合、インターネット接続があるが、Wi-Fi ネットワークカードがないコンピュータを使用している時、他の無線通信可能なデバイスにインターネット環境を提供するのに用いられます。

この接続プロファイルは、設定が最も難しく、コンピュータがモバイルデバイスとのインターネット共有できることが条件になります。Windows XP でこの接続プロファイルをセットアップするには、次の手順で行います。Windows Vista に関してもほぼ同様の手順になります。

Windows XP

コンピュータのインターネット共有を有効にします。注意すべき点として、Windows は 1 つのモバイルデバイスに対して 2 つの異なるネットワークカード名を使用していることが挙げられます。1 つはインターネット共有モード、もう 1 つは ActiveSync モードです。

セットアップするもっとも簡単な方法は、WMWifiRouter を USB から Wi-Fi 接続モードで接続し、WMWifiRouter の準備が完了するまで待ちます。次に、コンピュータのネットワーク接続を開きます。一覧の中から、使用しているインターネット接続を右クリックし、[プロパティ]を表示します。[詳細設定]タブを開き、[インターネット接続の共有]を有効にします。[インターネット接続の共有]のチェックボックスの

下にネットワーク選択用のボックスがある場合、[Windows Mobile based Internet Sharing device]を選択します。

ここまでの作業を行ったなら、WMWifiRouter の接続を切断し、USB から Wi-Fi 接続モードに再接続します。コンピュータの設定を変更しない 限り、USB から Wi-Fi 接続プロファイルを再度使用する時に、一連のセットアップ作業を再度行うことなく、即座に接続できます。

一度セットアップを行うと、携帯から USB 接続プロファイルを同じコンピュータで使用できません。[携帯から USB]接続プロファイルを再度有効にするには、コンピュータ上のインターネット接続共有を無効にする必要があります。

終了



WMWifiRouter を終了します。

接続画面

WMWifiRouter の接続を開始し、準備が完了するとネットワーク名、およびパスワードが表示されます。



ボタンをタップして、確認してください。



ステータス ビュー

ステータス画面は WMWifiRouter が接続プロファイルを接続中、接続済み、もしくは切断中の場合に表示されます。画面はステータスと統計、2つのビューで構成されています。

ステータス ビューは、ステータス オプションでのみ使用し、他のオプションすべては統計ビューを使用します。

ステータス ビューでは、統計ボタンからデフォルトの統計ビューへの移動や切断ボタンで接続の切断ができます。

統計ビュー

統計ビューでは、赤い矢印ボタンでステータス ビューに戻ったり、緑の矢印ボタンで異なる統計ビューに切り替えることができます。

統計ビューに表示される値の単位は、ビットではなくバイトです。



ステータス



デフォルトのステータス ビューはソースとターゲットの接続状況とバッテリー残量をアイコンで表示します。

ステータスビューでは、統計ビューへ切り換わる統計ボタン(グラフが書かれた四角いボタン)が表示されます。統計ビューを表示している場合には、赤い矢印ボタンでステータス ビューに戻ることができます。

概要



統計概要画面は、ステータス ビューの統計ボタンを押した際に表示されるデフォルト画面です。

データ転送速度とインターフェースをつけてからのデータ転送数が表示されます。

バッテリーのレベルや温度の表示に対応したデバイスであれば、それらの情報も表示されます。

ステータス ビューに戻るには赤い矢印ボタンを使い、他の統計ビューを見るには緑の矢印ボタンを使います。



ソース

ソース インタフェース(インターネットに接続しているインタフェース)の情報を表示します。統計概要ビューより具体的な内容が含まれます。

IPアドレス、サブネットマスク(ネットワーク表記)、MACアドレス、そしてパケットの統計等の情報が表示されます。



The screenshot shows the WMWifiRouter interface with the '携帯電話' (Mobile Phone) section selected. The interface includes a title bar with the WMWifiRouter logo and standard window controls. Below the title bar, the '携帯電話' section displays the following information:

携帯電話		
アドレス	0.0.0.0/0	
	00:00:00:00:00:00:00	
	受信	送信
速度	0 B/s	0 B/s
合計	0 B	0 B
廃棄	0	0
エラー	0	0

At the bottom of the interface, there are three navigation buttons: '接続' (Connect), 'あ' (Home), and 'オプション' (Options).

ターゲット

ターゲット インタフェース(プライベート ネットワークに接続しているインタフェース)の情報を表示します。統計概要ビューより具体的な内容が含まれます。

IPアドレス、サブネットマスク(ネットワーク表記)、MACアドレス、そしてパケットの統計等の情報が表示されます。



The screenshot shows the WMWifiRouter interface with the 'Wi-Fi' section selected. The interface includes a title bar with the WMWifiRouter logo and standard window controls. Below the title bar, the 'Wi-Fi' section displays the following information:

Wi-Fi		
アドレス	0.0.0.0/0	
	00:00:00:00:00:00:00	
	受信	送信
速度	0 B/s	0 B/s
合計	0 B	0 B
破棄	0	0
エラー	0	0

At the bottom of the interface, there are three navigation buttons: '接続' (Connect), 'あ' (Home), and 'オプション' (Options).

NAT

NAT(Network Address Translation)エンジンの情報が表示されます。情報には、マッピング数、バイトやパケットでマッピングしたデータ、廃棄したパケット等が含まれます。このビューのラグは通常は数秒ですが、デバイスにより、またデータ量の重い通信では大幅なラグが起きることがあります。



	受信	送信
マッピング	0	0
バイト	0	0
パケット	0	0
- 欠落	0	0

これらの統計値は大幅なラグが生じている可能性があります

接続 あ オプション

NAT マッピング

NAT マッピング画面に移動します。この画面では、NAT エンジンによる接続のマッピングをリアルタイムで見ることができます。

切断



接続中の接続プロファイルを切断し、メイン画面に戻ります。

オプション

特殊なツールや環境設定画面への移動を可能にします。

ツール

特殊な状況下で必要となる機能が含まれています。上級ユーザでない限り、このメニュー内の機能を使うことはありません。



すべての設定をリセット

環境設定をすべて消去し、デフォルト設定に戻します。さらに、セットアップ ウィザードを再度トリガさせます。

モバイルデバイスの環境設定を大きく変えた場合にこのオプションを使うことをお勧めします。

ログ表示

通常のディスプレイとログのディスプレイを切り換えます。ログには、プログラムの起動時から WMWifiRouter が行った動作に関する膨大な情報が含まれます。

通常、ログは、WMWifiRouter カスタマサポートによるトラブルシューティングの際に使います。

サポート情報保存

サポートに必要なデバイス情報をテキストファイルに保存します。カスタマサポートによるトラブルシューティングの際に使います。

USB

USB のインタフェースに関する機能が含まれています。

モードの切り換え

利用可能モードに USB ポートを切り換えます。通常の USB オペレーションは、Rndis モードを使用します。

Rndis モードは、ActiveSync とインターネット共有という 2 つのサブモードに分けられます。ActiveSync モードは、通常コンピュータ にモバイルデバイスを接続している場合に使用します。インターネット共有モードは、USB 間でデータ等のルーティング時に使用します。

Bluetooth

Bluetooth のインタフェースに関する機能が含まれています。

モードの切り換え

Bluetooth stack の通常モードと PAN モードを切り換えます。

検出可能モードの切り換え

Bluetooth スタックのオン/オフ、さらにオン/検出可能モードを切り換えます。組み合わされていないデバイスがモバイルデバイスを検出するためには、Bluetooth を検出可能モードにする必要があります。この機能は、すべてのデバイスで動作するわけではありません。WMWifiRouter 外で手動でこの機能を動作させる方法は Windows Mobile やデバイスのユーザガイドで確認してください。

Wi-Fi

Wi-Fi のインタフェースに関する機能が含まれています。

電源

Wi-Fi の出力パワーをオンザフライで変更できます。WifiRouter オペレーションには、Full Power モードをお勧めします。

このオプションは、すべてのデバイスで動作するわけではありません。WMWifiRouter 外で手動でこの機能を動作させる方法は Windows Mobile やデバイスのユーザガイドで確認してください。

接続モード切り換え

接続モードの切り換えができます。利用可能なオプションは、[すべて]、[アクセスポイントのみ]、[アドホック接続のみ]の 3 種類です。

構成

このサブメニューは、WMWifiRouter 環境設定オプションへのアクセスを可能にします。詳細設定の環境設定以外の設定は、すべての接続プロファイルに設定が反映されます。

接続中やルーティング中に、設定オプションを変更しないでください。ただし、使用説明書が特定のオプションのために変更を行うよう記述がある場合やカスタマサポートから指示を受けた場合は例外です。

言語

WMWifiRouter で使用する UI 言語の設定が行えます。

接続方法

携帯通信ネットワークの環境接続画面に移動します。携帯通信ネットワークをベースにした接続プロファイルでインターネットに接続する場合に、WMWifiRouter がどの携帯通信ネットワーク接続を使用するか設定できます。

複数の携帯通信ネットワークが存在する場合、WMWifiRouter は検出される接続一覧内で推奨される接続を予め選択します。

接続中やルーティング中に、設定オプションを変更しないでください。

Wi-Fi ネットワーク

Wi-Fi ネットワークの環境設定画面に移動します。

この画面では、Wi-Fi ネットワークの生成や動作に関する様々な設定を変更できます。これらのオプションは、Wi-Fi をターゲットとしている接続プロファイル(携帯から Wi-Fi 等)との関連性があるのみで、Wi-Fi をソースとする接続プロファイル(Wi-Fi から USB 等)とは関連がありません。

Wi-Fi ネットワーク マネジメント

まず、WMWifiRouterによるWi-Fiネットワークの管理方法を選択します。**ダイナミック(セキュリティ重視)**、**設定済み(速度重視)**そして**なし(上級者向け)**の3種類のオプションから選びます。

ダイナミック(セキュリティ重視)オプションは、必要な時に毎回Wi-Fiネットワークを作り、必要なくなるとネットワークを削除します。デフォルト設定としても使われ、WMWifiRouterがすべてやってくれる最も簡単なメソッドです。しかし、Wi-Fiドライバに欠陥のあるデバイスなどではフリーズが起きてしまうこともあります。

設定済み(速度重視)オプションでは、Wi-Fiネットワークを一度作ると、デバイスのWi-Fi設定に保存されます。セットアップ済みの他のWi-Fiネットワークと摩擦が起きることもありますが、接続プロファイルのスタートアップやシャットダウンのスピードは**ダイナミック(セキュリティ重視)**より高速です。

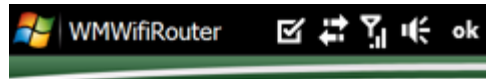
なし(上級者向け)オプションは、WMWifiRouterによるWi-Fiネットワークマネジメントを無効にします。Wi-FiネットワークマネジメントをデバイスとWindows Mobileに任せるかたちになります。

接続モード

次に、接続時の接続モードを選択します。**アドホック(推奨)**と**なし(上級者向け)**の2種類のオプションから選べます。

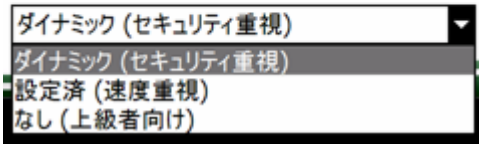
アドホック(推奨)モードは、Wi-Fiが使われる度に接続モードをアドホックに設定し、切断されると設定を上書き保存します。デフォルト設定はこのモードです。

なし(上級者向け)はどの接続モードも設定しません。この設定は通常、インターネット信号を携帯データ通信接続からハードウェアのアクセスポイントに提供したい場合のみ使用されます。



Wi-Fiネットワーク

Wi-Fiネットワークの管理方法を選択してください。ダイナミックモードでは、ネットワークの作成と削除を毎回行います。設定済みモードでは、ネットワーク設定を1度だけ行い、以降はその設定を利用します。他のアクセスポイントに接続する場合は、[なし]を選択してください。



Wi-Fiネットワーク

設定する接続モードを選択してください。アドホックモードは、使用デバイスをアクセスポイントとする場合に必要です。他のアクセスポイントに接続する場合は、[なし]を選択してください。



ネットワーク名

WMWifiRouter がネットワーク管理を行なうよう設定したなら、ネットワーク名設定画面が表示されます。アドホックネットワークが検出された場合は、検出されたネットワークの一覧も表示されます。

ネットワーク名は 6 文字以上 32 文字以内で設定します。ネットワーク名に、アルファベット (A~Z)、数字 (0~9) とアンダースコア () 以外は使用できません。ネットワーク名の最初は必ずアルファベットを使用し、数字は 2 文字目以降に使用してください。ネットワーク名は、ほとんどのプラットフォームで大文字と小文字の区別はありませんが、いつでも設定時と同じ様に入力することをお勧めします。

暗号化

暗号化の設定には、WEP/Open(推奨)と None(テスト用)のオプションがあります。WEP 暗号化を使用が推奨されていますが、トラブルシューティングの場合だけは、None オプションを使用して問題の原因が WEP 暗号化であるかどうかを確認します。



Wi-Fiネットワーク

Wi-Fiネットワークに使用する名前を入力してください

WMWifiRouter_2337



Wi-Fiネットワーク

使用する暗号化タイプを選択してください。通常は、WEP/Openを推奨しますが、接続に問題が発生している場合は、[なし]を利用できます。

WEP/Open (推奨)

WEP/Open (推奨)

なし (テスト用)



暗号化(WEP キー)

WEP 暗号化の使用を選択している場合、WEP キーの設定画面が表示されます。

WEP キーは 5 もしくは 13 文字の英数字、または 10 もしくは 26 文字の 16 進数表記になります。

大半のプラットフォームは WEP キーの長さを任意で設定できますが、互換性の問題になると、WMWifiRouter ではサポートしていないので、上記の ような制限があります。上記の基準に満たない WEP キーは、基準を満たす WEP キーを生成するために WMWifiRouter のシードとして使用されます。

互換性が最も高いとされる WEP キーは数字 10 桁ですので、まず数字 10 桁の WEP キーを幾つか挑戦してみてください。この作業で確認を行った後、より安全性の高い数字 26 桁へのステップアップをお勧めします。しかし、すべてのデバイスやプラットフォームが、26 桁の数字の WEP キーをサポートしているわけではありません。

使用を希望する WEP キーを入力すると、正確な WEP キーが表示されると同時に、クリップボードにコピーされます。

暗号化(WEP キー インデックス)

最後に、WEP キー インデックスの設定画面が表示されます。デフォルト設定されている 1 の設定が推奨されており、変更する必要はありません。



Wi-Fiネットワーク

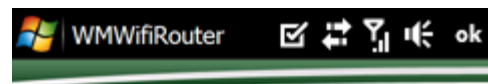
暗号化に必要なWEPキーを入力してください。有効なWEPキーは5もしくは13文字の英数字、または10もしくは26文字の16進数表記になります。この基準に満たないWEPキーが入力された場合は、基準を満たすWEPキーを生成するのに利用されます。

1234567890

前へ

あ

次へ



Wi-Fiネットワーク

使用する暗号化キーインデックスを選択してください。デフォルト設定されている1が推奨されています。

1

前へ

あ

次へ

変更

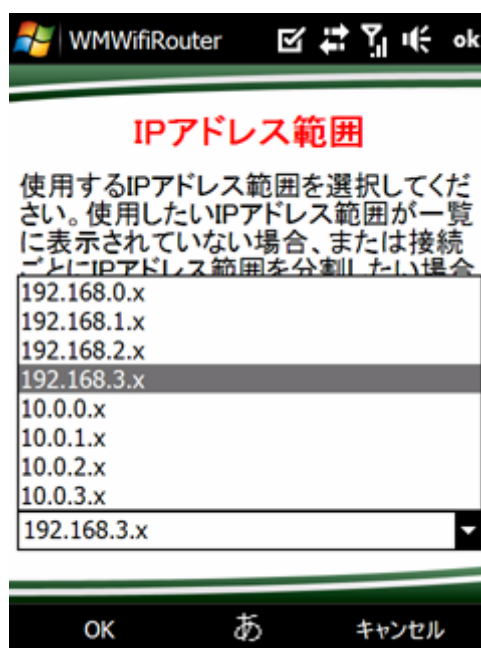
接続中やルーティング中に、設定オプションを変更しないでください。この設定オプションの変更は、次に WMWifiRouter によって Wi-Fi が使われる時に反映されます。

IP アドレス範囲

IP アドレス範囲の環境設定画面が表示されます。この画面では、WMWifiRouter が使用する IP アドレスの範囲を設定します。デフォルト設定では、192.168.3.x が使われていますが、使用しているサーバやクライアントデバイスの他のネットワークとコンフリクトを起こす(干渉して正常に動作しない)場合には変更する必要があります。

使用したい IP アドレス範囲が一覧に表示されていない場合、アドバンス設定画面で手入力が可能です。

接続中やルーティング中に、設定オプションを変更しないでください。



バッテリー

バッテリーの環境設定画面が表示されます。

WMWifiRouter は、定期的にバッテリーの残量や温度をチェックし、電話するためのバッテリーの温存のため、またオーバーヒートやバッテリー切れによってデータが消えるのを防ぐために自動でバッテリーを切ることができます。

この設定画面では、バッテリー残量が低い時やバッテリーの温度が高温になった時に WMwifiRouter がどのように反応するか等を設定できます。

デフォルト設定は、バッテリー残量が 10%以下になった時、またバッテリーの温度が 65°C以上になった時に

WMWifiRouter の電源が切れるよう設定されています。

デバイスによっては、温度感知ができません。そのため、設定温度以下で WMWifiRouter の電源が切れたり、設定温度になっても WMWifiRouter の電源が切れない場合があります。大半のデバイスは、WMWifiRouter によって自動的に検知されます。

温度感知が正しく行われないデバイスを使用中にデバイスの電源が切れたとしても、焦る必要はありません。最近のバッテリーのほとんどは、ある温度で電源を切る熱/科学スイッチがあり、致命的なダメージを防いでくれます。熱/化学スイッチは少しの時間と熱が冷めないとりセットできないので、しばらくの間デバイスを起動することはできません。バッテリーをデバイスから取り出し、数時間放置してから再度使用してください。(場合によっては、最大 48 時間放置する必要 があります)

接続中やルーティング中に設定オプションを変更できますが、その場合は変更が反映されるのに数分かかる場合があります。



キープアライブ

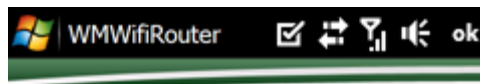
キープアライブの環境設定画面が表示されます。

WMWifiRouter は、接続が活着ていることを相手に伝えるために、定期的にサーバとのネットワーク確認や Web ページの読み出しを行います。デバイス/プロバイダによっては、キープアライブ機能が必須で、それにより接続が維持されます。通常ならばネットワーク接続の確認ですが、プロバイダによっては、HTTPトラフィックがない限り接続を切断することがあります。

複数のホスト名や URL を入力する場合は、パイプライン (|) で区切ります。Ping モードは URL フォーマットのターゲットにも対応しているので、Ping から HTTP GET モードに切り換えた場合にターゲットを変更する必要はありません。

複数のターゲットを指定した場合、設定したオペレーションを 1 つのターゲットで実行できるまで、ターゲットの一覧を 1 つずつ確認します。

接続中やルーティング中に設定オプションを変更できますが、その場合は変更が反映されるのに数分かかる場合があります。



キープアライブ

WiFiRouterは接続が有効であることを確認するために、サーバとの通信や Web ページの読み込みを行います。この機能を有効にしますか？



詳細設定

詳細な環境設定画面が表示されます。他の設定画面にないインターナルなオプションの数々を微調整したり、変更したりできます。

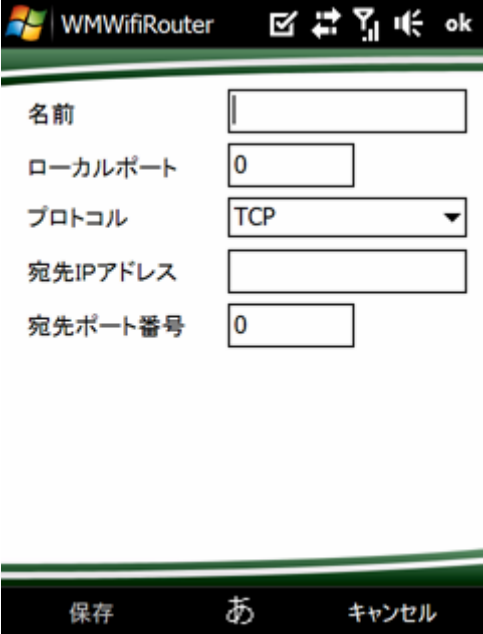
オプション一覧には、オプション名だけでなく、簡単な説明も表示されます。これらのオプションは上級ユーザ向けですので、オプション内容等をよく理解している場合にのみ変更してください。接続中やルーティング中に、設定オプションを変更しないでください。

ポートマッピング

ポートマッピングの環境設定画面が表示されます。

ポートマッピングの追加、編集、削除ができます。グローバルネットワーク(インターネット)からローカルネットワークへ接続を行う場合にポートマッピングを使います。

接続中やルーティング中に設定オプションを変更できますが、接続中の接続プロファイルを切断し再度接続した後、変更が反映されます。



The screenshot shows the configuration interface for port mapping on a WMWifiRouter. The title bar includes the Windows logo, the text "WMWifiRouter", and several system icons (network, volume, power) followed by an "ok" button. The main area contains five labeled input fields: "名前" (Name) with an empty text box, "ローカルポート" (Local Port) with a text box containing "0", "プロトコル" (Protocol) with a dropdown menu set to "TCP", "宛先IPアドレス" (Destination IP Address) with an empty text box, and "宛先ポート番号" (Destination Port Number) with a text box containing "0". At the bottom, there is a dark bar with three buttons: "保存" (Save), "あ" (Home), and "キャンセル" (Cancel).

バージョン情報

バージョン情報画面には、使用している WMWifiRouter の著作権情報、バージョン情報、ビルド情報等が表示されます。

ライセンス

アクティベーション情報画面には、対応する使用許諾契約書が表示されます。使用許諾契約書内の事柄は、最初のセットアップ時に承諾しているため、拒否することはできません。

さらに、現在使用しているアクティベーション キーの変更が行えます。

終了

WMWifiRouter の電源を切ります。接続中の接続プロファイルがある場合には、その接続も切断します。

著作権

(C) 2008, 2010 Morose Media. All rights reserved.

本ユーザガイドに記載されている内容は、予告なしに変更されることがあり、Morose Mediaはその責務を負うものではありません。また、本書で言及されている社名および製品名はすべて、それぞれの所有者の商標または商標登録です。

日本語ローカリゼーション: 株式会社ネクステッジテクノロジー <http://www.nextEDGEtech.com>

<http://www.shareEDGE.com> シェアエッジプロジェクト